

その名大口

「修学旅行を振り返って」 2学年 井上広之先生

修学旅行を終えた2年生の皆さん、帰宅した後、旅行先での体験を、そして修学旅行に参加させてもらえたことへの感謝を家族に伝えましたか。話したことは、楽しかった思い出に関するものがほとんどでしょうが、皆さんが成長した部分を言葉や行動で伝えることができれば今回の修学旅行が有意義だったと言えるのではないのでしょうか。



さて、今日は今回皆さんと一緒に行動する中で感じたことを、お話したいと思います。それは、旅程を消化していく中で、それぞれの場でプロとして働く方々との出会いがあったということです。例えば、全行程に付き添って下さったお二人の添乗員さん。出発の日は朝6時半集合でしたが、梅田さんはおそらく4時頃には起きてこの伊佐まで来られたのではなかったかと思います。そして、消灯となった夜11時頃によく一息つけたことでしょう。4日間を通して、その時々トラブルや要求に真摯に対応していただいたおかげで、皆さんの旅行が成功裏に終わられたのです。あるいは、現地でのバス移動の際に案内、引率をくださったガイドさんも、たとえ皆さんの多くが眠っていても、それに腐ることな

12/6 ・ 鹿児島空港→伊丹空港→道頓堀散策→大阪城→大阪造幣局→旅館

12/7 ・ 旅館→京都班別自主研修→旅館

12/8 ・ 旅館→関西大学→USJ→ホテル

12/9 ・ ホテル→奈良公園・東大寺→薬師寺→伊丹空港→鹿児島空港

くお仕事を全うされていました。USJでは、私はミュージカルショーのようなものを拝見しましたが、プロのエンターティナーとして観客に笑いや感動を与える方々の姿を見ました。薬師寺のお坊さんのお話は大変おもしろく、ここにも話のプロとしての気概を感じるころでした。もちろん、年配の方々も多かったのですが、中にはアルバイトであるだろう若い方々もいました。学校に通いながら、しかし仕事場ではプロとして社会に貢献する様子を見て、はたして、今の大口高校の2年生諸君が、あとほんの数年後にこのような姿を見せられるだろうか、と心配になりました。今朝も、集合が良くなかったですね。旅行中にも、そういったことがありました。失敗することがよろしくないのではなく、失敗から学ばないことが良くないのです。社会で同じ失敗を繰り返しては、信用を失います。やりがいのある仕事も任せてもらえないでしょう。今回の旅行で出会った職業人たちも、失敗を繰り返しながら学び、身を立ててこられたのだと思います。この修学旅行が皆さんのこれからに何か確実に寄与したんだと、そう感じさせてくれるような今後の成長を期待したいと思います。

「海外生活で得たもの」 1 学年 中野翔子先生

皆さんも高校生活 1 年目も、3 分の 2 が終わろうとしていますね。高校 3 年間はきっとあっという間に過ぎ去ってしまうと思います。これからの自分たちの将来についての、やりたい事や学びたい分野を決めて早め早めに行動してほしいと思います。過去に戻れるならいつに戻りたいかと聞かれれば、たぶん私は高校 3 年生や 19 を迎えるころだと思います。何もかもが新鮮でとてもわくわくしていた時期です。高校を卒業し私が興味を持っていたことは海外や語学に関してでしたので、留学をして英語や多文化に触れ、語学関係の仕事に就きたいと考えていました。最初は頭の中にぼんやりある程度でしたが、親の支援も受け留学するのだから現地の短大で勉強をし卒業したいという新たな目標ができました。

留学生活は、楽しいことばかりではありませんでした。はじめは英語があまり喋れず苦勞ばかりでした。ホームステイ先の家族ともおりがあわず、初めはホームシックで日本の家族や友達のことばかり考えていました。初めの 2・3 か月は日本人が私を含め二人しかいませんでした。他には韓国人～台湾人～フィリピン～比較的アジアの留学生が多い大学に付属している語学学校に通っていましたが、友人ができて楽しいと思えるようになったのは半年くらい過ぎてからでしたが、そのころにはよく英語の夢を見るようにもなりました。私は新しい土地に慣れるまでに少し時間がかかるタイプではいたもののそのころにはホームシックはもうすでになくなっていました。周りに心が通える友人ができ、意思疎通がだいぶできるようになり、日々の生活がとても楽しくなりました。最近よく聞くシェアハウスやルームシェアと呼ばれるものも、初めは知らない人同士で共同生活をするなんてと自分自身ができるとは思っていませんでしたがこれらも本当にいい経験になりました。互いに違ったバックグラウンドを持ち、そして母国語も違う人たちと共に過ごすのですから、衝突もありました。でもそのようなときも必ず話し合いの機会を作って、自分自身の気持ちをしっかりと伝え、相手の気持ちを理解することに専念しました。アメリカ人や他国の人々は自分自身を主張し、気持ちをうまく伝えるすべを持っています。これは語学学校や短大のクラスを取って、実感したことでした。生徒の中には教授と意見が対立し、討論になり怒って教室をでて行った人もいました。Woman 's study という、女性学のクラスを取った時の出来事でした。一人の男性が自分の妹が女性という理由でひどい扱いをされた時の話をしていました。感情がコントロールできずに、その男性は授業中に泣いてしまいました。クラスの中に他にも泣いている方もいらっしやいました。取っているクラスが重い話題を取り上げることもよくあるクラスでしたが、その当時の私は本当にカルチャーショックを受けました。こんなにも自分自身の感情をあらわにし、相手に伝えることができるなんて、と非常にうらやましく感じました。これは今でも同じです。私はあまり表現することが得意なほうではありませんが、このような経験が今でも私の中で役に立っていると感じます。

アメリカでは、母国のことや政治に関しても知識や自分の考えをしっかりと持っていて、それを自分の言葉で表現できる方が多いです。普段の学校生活から、そのようなトレーニングを一人一人が行っています。授業の様子を話に出しましたが、普段の授業ではみなさんどうでしょう。誰かが発表してくれるからいいや、なんて思っている人はいませんか。実際アクティブに発言してくれるクラスは元氣もありますし、授業中の集中力も違うように思います。2 年後には皆さんも大学や専門学校などの受験を控えているでしょう。就職試験を控えている生徒もいるでしょう。くどいようですがきっとあっという間に 3 年生になってしまうでしょう。大学入試の推薦入試では面接もあります。就職試験も同様です。こういった 2 年後のことを考え、そして自分自身のためを思って、日ごろの生活から少しずつ変えていきましょう。私が海外に行き数年暮した日々は、今でも鮮明に残っています。その当時にできた友人は今でも連絡を取り合ったり、その友人の国へ会いに行ったり交流は続いています。語学留学を通して分か



ったことは自分が相手へ伝えたいという気持ちがあれば、相手には伝わるということ。そして一番大事なことはその伝えたいという気持ちを持って接しなければならないということでした。気持ちや意見をしっかりと伝えることのできる大人に君たちになってくれることを願っています。

センター試験説明会の様子 (12/13)。受験票を手渡されました。